

2017年(平成29年度)複数年サイクル点検評価レポート【施策評価】

分野名	I 府民の参加・行動	施策No.	2	施策名	環境教育・学習の推進
目的、内容	環境教育・学習の場や手法等の提供により、あらゆる世代の環境教育・学習を推進する。				
副次的効果、外部効果等	ESD(持続可能な開発のための教育)の視点による多様な主体の連携により、地域や地球の課題解決に向けた市民と地域の力の向上に資する。				
関係法令、行政計画等	①環境教育等促進法(H23改正公布) ②府環境教育等行動計画(H24年度策定):施策の柱に「人材育成・人材活用」「場の提供・学習機会の提供」「教材・プログラムの整備と活用」「協働取組の推進・民間団体等への支援」を掲げる。				
国等の政策、社会情勢等	①持続可能な開発のための教育(ESD)の10年(2005~2014年):日本の提案により国連で採択、終了後も推進することで国際合意。 ②H24年6月「環境保全活動、環境保全の意欲の増進及び環境教育並びに協働取組の推進に関する基本的な方針」閣議決定。協働取組についての取組の方向を新たに規定。				
(参考) 「講じた施策」に記載した施策事業コスト	2014年度(決算額)(千円)	2015年度(決算額)(千円)	2016年度(決算見込額)(千円)		
	0	1,459	0		
	※各年度で「講じた施策」への掲載事業が異なることから、新規事業の有無等に関わらず、年度間でコストの増減がある。				
取組指標及び実績 (施策効果の定量評価)	名称	把握方法	実績		
①	環境教育・環境学習に参加する府民の割合の変化	府インターネットモニターアンケート(参考値)	過去1年間に環境教育・環境学習に参加した府民の割合 体験型:4.1%(2015年)、3.0%(2016年) 座学型:4.3%(2015年)、2.2%(2016年)		
②	環境活動の場を提供するサービスに接した府民の割合の変化、及び環境行動の動機付けへの効果	同上	環境活動の場を提供するサービス(府以外も含む)を利用経験有:5.0%(2015年)、6.1%(2016年) 存在を認知:13.9%(2015年)、15.3%(2016年)		
「主な施策」の進捗状況	施策の内容	進捗状況*	主な事業の名称	事業の実施状況	
	企業・NPO等の環境教育支援の仕組みづくり	☆☆	環境情報プラザ管理運営 環境活動団体交流ネットワーク「かけはし」の運営 環境交流パートナーシップ事業	15,825人(2014年度)、15,092人(2015年度) 利用人数は年間のべ13~17千人で推移。2016年9月閉鎖。 登録104団体(2015年度末) 交流セミナー(環境教育研究会)の実施 2016年度:4回	
	教科横断型の環境教育推進、成果の普及の機会づくり	☆☆	教材冊子「考えよう!地球温暖化とエネルギー」の作成	おおさかスマートエネルギー協議会の取組みの一環として、教材冊子「考えよう!地球温暖化とエネルギー」を毎年作成し、府内(大阪市除く※)小学校5年生全員に配布。 ※本冊子は、大阪市が発行する教材冊子「おおさか環境科」の温暖化・エネルギーに関する部分を基に作成し同市以外にも広く展開するという趣旨で配布するもの	
			小中高校における環境教育の推進 各種出前講座等の実施	専門外部講師の活用、成果普及の機会づくり 高校における環境関係のコースの設置 大阪府地球温暖化防止活動推進センターとの連携等により、各種出前講座を実施	
			日本万国博覧会記念公園事業(自然観察学習館業務)	〈2016年度実績〉 ・児童・生徒等への自然環境学習、吹田市教育委員会・高槻市教育委員会との連携による教職員研修(70校5,247人) ・自然体験イベントの開催(セミの羽化観察会・星座観望会等80件、参加7,184人) ・環境学習実施を共同して行うボランティア団体の充実(2団体 約90名) ・園内自然環境の情報発信(常設展示と併せ企画展示を年12回実施) ・自然環境保全への啓発イベントの開催 チャレンジラリー(参加80人) 秋みつけビンゴ・冬みつけビンゴ(参加182人) 15分プログラム(参加621人) ・来園者と協働して行う自然環境調査の実施(セミの抜け殻調査) ・「カワセミだより」発行 年12回 ・自然観察学習館への年間来館者数(約11.4万人)	
	様々なフィールドにおける体験的環境学習プログラムの作成と普及	☆☆	「エコあらかると」の運営 環境学習ハンドブック2014 活動の枠組みづくり	掲載情報件数 824件(2014年度末) 849件(2015年度末) 900件(2016年度末) 平成25年度に作成、配布(1,400部) 平成26年度以降は、ダウンロードして活用できるよう府HPにおいて公開。 多奈川ピオトップエコアップ事業や共生の森づくり活動支援事業等の事業において、多くの府民や企業が連携して継続的に活動できる場・組織づくり、及びその活動の継続を支援した。	
	※進捗状況:☆☆☆計画以上の進捗/☆☆計画どおり/☆計画以下の進捗/△計画とは異なる事業内容で進捗				
評価	評価	理由等			
施策目的の達成見込み	一部想定以下の進捗	指標値は低い値を推移している。			
事業の進捗	概ね計画ど				

	状況	おり進捗	
計画見直し又は改善事項		見直し・改善点の有無	見直し・改善の内容等
	目標	—	
	施策の方向・主な施策	無	
	工程表	—	
	その他の改善事項	有	取組指標値の向上に向け、より一層の取組推進を検討。
関係課室	エネルギー政策課、環境農林水産総務課、みどり推進室、府民文化部		

※本アンケートの対象は自己申告制のモニターであり、統計的な手法で府民全体から抽出したものではないため、本結果は府民の状況を統計的に反映したものではなく、参考値として扱う。

環境総合計画部会委員による点検（所見）	点検評価手法の適正さについて	評価結果について	計画の見直し又は改善方針について
	実績の把握方法に不明な点があり、現時点では判断できかねる。	事業単位で見れば、概ね妥当だと思われる。	実績からは、指標値は低く推移し、環境教育・学習に参加する府民の割合は減少しているとよめる。「進捗状況」は概ね計画どおり。「進捗状況」で上げられる主な事業の評価が反映されるよう、指標および指標値の見直しを検討してはどうか。